

あ い さ つ

奥州市立胆沢第一小学校

校長 八重樫 泰規

私たちは、学校教育目標「ゆたかでたくましい人になるために～深く考え、やりぬく子ども 仲良くはげまし合うこども よく運動し、元気な子ども 自ら進んで働く子ども～」の実現を目指し、地域の未来を担う子どもたちが大きな希望を持ち笑顔で学校に通い、未来につながる確かな学びを得ることができるよう、全ての教育活動に取り組んでおります。したがって、研究推進にあたりましても、目の前にいる一人一人の子どもたち個々の可能性を最大限に高めることを念頭に置きながら実践的に取り組んできたところです。

本校は、奥州市教育委員会から3年間の研究指定を受け、令和5年度から「自分の考えをもち、適切に表現しようとする子どもの育成」を研究主題として掲げ、国語科の授業実践に取り組んでまいりました。令和5年度は、「語彙を豊かにする」実践に取り組み、単元の学習において新しい言葉を知り、言葉の仲間を増やしていくとともに言葉を使う方法を中心に研究してまいりました。令和6年度は、「考えを形成する」実践に取り組み、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、子どもたちの知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりする研究をしてまいりました。

折々の教育実践の中で、本校の子どもたちの確かな成長を実感するとともに、新たな課題も明らかになってまいりました。それは、子どもたちの無限の可能性を信じてやまない本校の職員風土に根ざしたものであり、また、日々刻々と変化する教育動向を鑑みながら「未来を担う人間」を育てているという教師としての使命から生まれてきたものであります。

今次研究は、主題「自分の考えをもち、適切に表現しようとする子どもの育成」を継続しながら「国語科における考え方の共有を目指した指導を通して」を副題として設定いたしました。これは、これから時代を生きる子どもたちのために小学生の今、付けたい力を育成していくためには、子どもたちが、自らの語彙を豊かにし、言葉による見方・考え方を働かせて、自分の考えを形成する学習を生かし、友達と考えを共有して自分の考えを広げたり深めたりする学習が重要になってくると考えたからでございます。毎日の授業の中で、「目的をもって学びに向かう工夫」「言語活動の質を高める工夫」を通して、自己の学びや生き方を希求する人間に育ってほしいと願いながら、実践を重ねてまいりました。

全ての子どもに力をつけたいと研究を推進してまいりましたが、願ったこと、志したことの大きさに比べれば、その成果はまだまだ不十分な面が多くあります。本日の学校公開研究会におきまして、御参会の皆様から率直な御指導、御批正をいただきますようお願い申し上げます。

終わりになりましたが、本研究を進めるにあたりまして、親身になって御指導、御助言をいただきました県南教育事務所、奥州市教育委員会の諸先生方をはじめ、陰に陽にご支援いただきました関係各位に厚く御礼申し上げ挨拶いたします。